

【資料 4】

試行検討：猿沢池地区の計画目標

目 次

1. 計画条件の整理……………4-1
2. 眺望の検討……………4-8
3. 現況植栽の問題点・課題の整理……………4-16
4. 計画目標(案) ……4-18

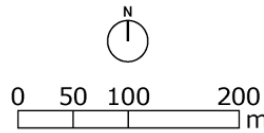
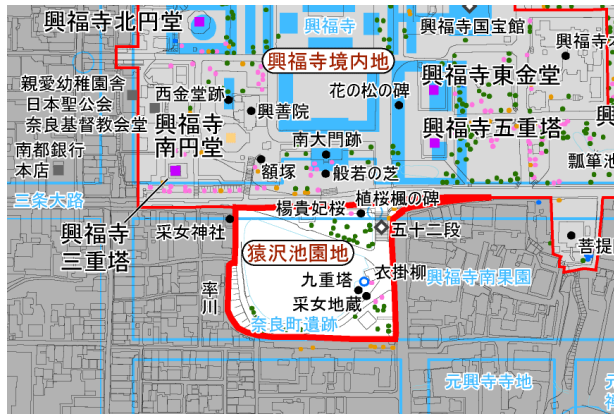
1. 計画条件の整理

1) 上位計画

上位計画である名勝奈良公園保存管理・活用計画の猿沢池地区及び隣接する興福地地区の計画内容は、以下のとおりである。

●猿沢池ゾーン

1) 本質的価値を構成する要素および関係する法制度等



- 区域区分(ゾーン)
 - 名勝奈良公園区域 ※1
 - 名勝奈良公園区域外
 - 有形文化財(建造物)
 - 国指定(国宝)
 - 県指定
 - 国指定(重文)
 - 市指定
 - その他国指定史跡・名勝・天然記念物
 - 県指定史跡・名勝・天然記念物
 - 市指定史跡・名勝・天然記念物
 - 平坦部の主な樹木分布状況 ※2
 - 松
 - 桜
 - 楓
 - 杉
 - 史跡・名勝・天然記念物
 - 史跡 春日大社境内
 - 史跡 東大寺旧境内
 - 史跡 興福寺旧境内
 - 特別天然記念物 春日山原始林
 - その他国指定史跡・名勝・天然記念物
 - 登録有形文化財(建造物)
 - その他歴史的・文化的資源(文化財を除く)
 - その他自然的資源(文化財を除く)
 - ◇ その他公園施設等
 - 周知の埋蔵文化財包蔵地
- ※1 奈良県教育委員会編『奈良県史跡名勝天然記念物集録1』を基に作成
 ※2 奈良県資料『公園樹木台帳』および奈良公園史編集委員会編『奈良公園史』附図「奈良公園潜在自然植生図及平坦部樹木分布図」、現地調査によりH21.10作成

●自然的要素 ◎：歴史的・文化的要素
 ○公園的要素 ◇その他要素

区分		本質的価値を構成する要素
地形・地割	地形	—
	地割等	○園地(猿沢池園地) ○堤
水系	流れ	●◎率川
	池	●◎○猿沢池
植栽・植生	植栽	◎名木、いわれのある樹木(衣掛柳、楊貴妃桜) ○園地の植栽樹木(松、桜) ○池畔の植栽樹木(柳)
	植生	○堤の樹林
建築物・工作物	建築物	—
	工作物	○猿沢池の石積護岸 ○園路 ○五十二段
遺跡・遺構	埋蔵遺構	◎周知の埋蔵文化財包蔵地(興福寺寺地、奈良町遺跡)
動物(奈良のシカを除く)		—
行催事の場の形成		◎采女祭
その他本質的価値を構成する要素と密接に関わる要素		◎碑(植桜楓の碑、九重塔、采女地蔵等) ◎采女神社 ※名勝指定区域に隣接
関係する法制度等		・歴史的風土特別保存地区 ・第1種風致地区 ・歴史拠点景観区域(奈良市景観計画)

2) 区域の保存管理・活用の基本方針

南都八景の一つである猿沢池の地形・水系・利用等を含めた総合的な保全・再生を図るとともに、名勝奈良公園における活用の中心として、公園の有する質の高い風致景観に配慮した整備・活用を図る。

3) 個別要素の保存管理・活用の主な考え方

歴史的・文化的要素に関わる考え方

- ・南都八景の一つである猿沢池は、古来の名所を形成する重要な歴史的・文化的要素として適切な保存を図る。
- ・かつての興福寺寺地として、当地の歴史を伝える遺跡・遺構等の保存と園地活用との調整に配慮する。
- ・采女祭は、当地の歴史・伝統を現在に伝える重要な要素であり、行催事の主たる場となる猿沢池は、隣接する采女神社との関係をふまえ、その継承のための適切な保存を図る。

自然的要素に関わる考え方

- ・池の適切な水質と水量を考慮しつつ、興福寺の放生池としての歴史的経緯をふまえ、豊かな生態系回復に向けた良好な水環境の保全・再生を図る。

公園的要素に関わる考え方

- ・公園を代表する景観として指定以前より評価されてきた猿沢池一帯の景観について、名勝指定時の景観を基本とした保全を図る。
- ・園地および池畔景観を特徴づける松、桜、柳等の植栽樹木の適切な維持管理を図る。
- ・池畔景観の背景となる堤の地形及び樹林の適切な保全を図る。
- ・石積護岸及び五十二段等の工作物は、池畔景観を構成する重要な要素として適切な維持管理を図る。



猿沢池



猿沢池から興福寺境内を望む



猿沢池の石積護岸と堤



五十二段



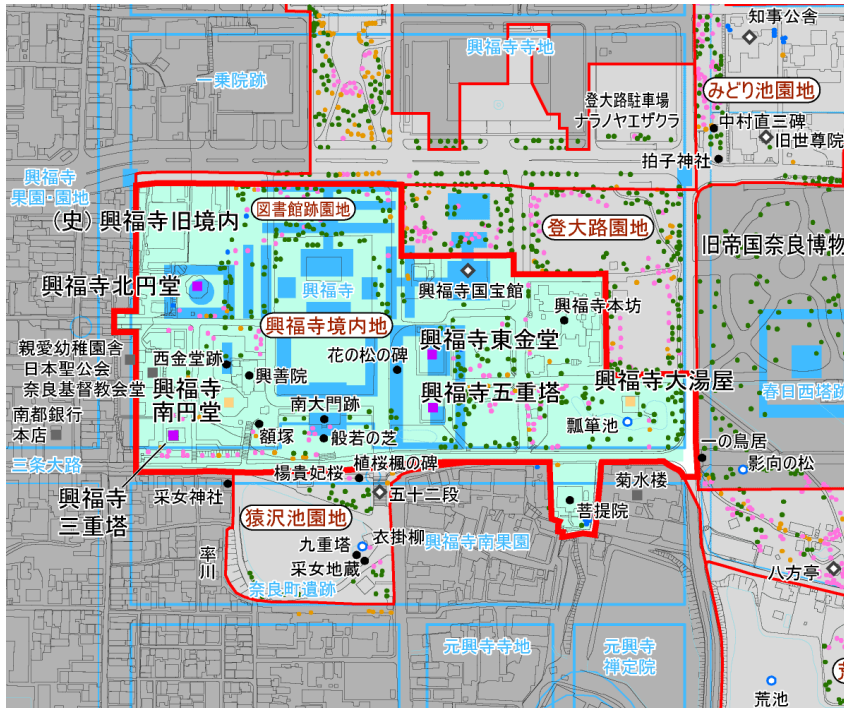
率川



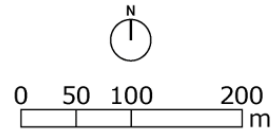
采女

●興福寺境内ゾーン

1) 本質的価値を構成する要素および関係する法制度等



- 区域区分(ゾーン)
 - 名勝奈良公園区域 ※1
 - 名勝奈良公園区域外
 - 有形文化財(建造物)
 - 国指定(国宝)
 - 県指定
 - 国指定(重文)
 - 市指定
 - 史跡・名勝・天然記念物
 - 史跡 春日大社境内
 - 史跡 東大寺旧境内
 - 史跡 興福寺旧境内
 - 特別天然記念物 春日山原始林
 - その他国指定史跡・名勝・天然記念物
 - その他国指定史跡・名勝・天然記念物
 - 県指定史跡・名勝・天然記念物
 - 市指定史跡・名勝・天然記念物
 - 登録有形文化財(建造物)
 - その他歴史的・文化的資源(文化財を除く)
 - その他自然的資源(文化財を除く)
 - ◇ その他公園施設等
 - 周知の埋蔵文化財包蔵地
- 平坦部の主な樹木分布状況 ※2
- 松
 - 桜
 - 楓
 - 杉



※1 奈良県教育委員会編『奈良県史跡名勝天然記念物集録1』を基に作成
 ※2 奈良県資料『公園樹木台帳』および奈良公園史編纂委員会編『奈良公園史』附図「奈良公園潜在自然植生図及平坦部樹木分布図」、現地調査によりH21.10作成

●自然的要素 ◎：歴史的・文化的要素
 ○公園的要素 ◇その他要素

区分	本質的価値を構成する要素	
地形・地割	地形	—
	地割等	◎興福寺境内地※(史跡興福寺旧境内) および伽藍配置 ○園地(図書館跡園地)
水系	流れ	—
	池	●◎興福寺境内の池(瓢箪池、他)
植栽・植生	植栽	◎名木、いわれのある樹木(南円堂の藤) ○境内地の植栽樹木(松、桜、楓) ○境内地の芝地
	植生	—
建築物・工作物	建築物	◎指定有形文化財(建造物) およびそれに準ずる建築物 — 国宝(興福寺北円堂、興福寺三重塔、興福寺五重塔、興福寺東金堂)等
	工作物	◎興福寺参道
遺跡・遺構	礎石等	◎南大門跡、西金堂跡、額塚等
	埋蔵遺構	◎興福寺旧境内地遺構(史跡興福寺旧境内)
動物(奈良のシカを除く)	—	
行催事の場の形成	◎薪能(般若の芝) ◎春日若宮おん祭・御渡式(りり坂)	

その他本質的価値を構成する要素と密接に関わる要素	◎碑（花の松の碑等） ◎興福寺子院、関連施設等
関係する法制度等	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的風土特別保存地区 ・歴史的風土保存区域^{※1} ・歴史拠点景観区域（奈良市景観計画）^{※2} <ul style="list-style-type: none"> ・第1種風致地区 ・第5種風致地区^{※1} <p>※1 市街地箇所は歴史的風土保存区域および第5種風致地区に相当する。 ※2 市街地箇所は歴史拠点景観区域には含まれない。</p>

2) 区域の保存管理・活用の基本方針

平城遷都以降の当地の歴史を象徴する興福寺の貴重な歴史的・文化的要素が集積する地区として史跡の適切な保存を図るとともに、公園の玄関口として境内地景観を構成する名木、松、桜などの樹木と歴史的・文化的要素との調和に配慮した保全・維持管理を図る。

3) 個別要素の保存管理・活用の主な考え方

歴史的・文化的要素に関わる考え方

- ・興福寺東金堂、五重塔や南都八景の一つに挙げられる「南円堂の藤」（南円堂）をはじめとする、境内地に所在する文化財に指定される建築物・工作物は個別の貴重性ととも、周辺景観・眺望景観を構成する重要な要素として、その適切な保存を図る。
- ・興福寺旧境内に関わる遺跡・遺構は、往時の歴史を伝える要素として現状の保存を図る。
- ・薪能等の興福寺境内地に係る行催事は、当地の歴史・伝統を現在に伝える重要な要素であり、境内地の行催事の場について、その継承のための適切な保存を図る。

公園的要素に関わる考え方

- ・公園開設当初の指定区域として、その地形・地割、池の適切な保全を図る。
- ・南都八景の一つに挙げられる「南円堂の藤」をはじめ、境内地景観を特徴づける松、桜、杉等の植栽樹木の適切な維持管理を図る。



興福寺境内（県庁展望室より）



興福寺境内（東金堂及び五重塔）



南円堂と藤



北円堂



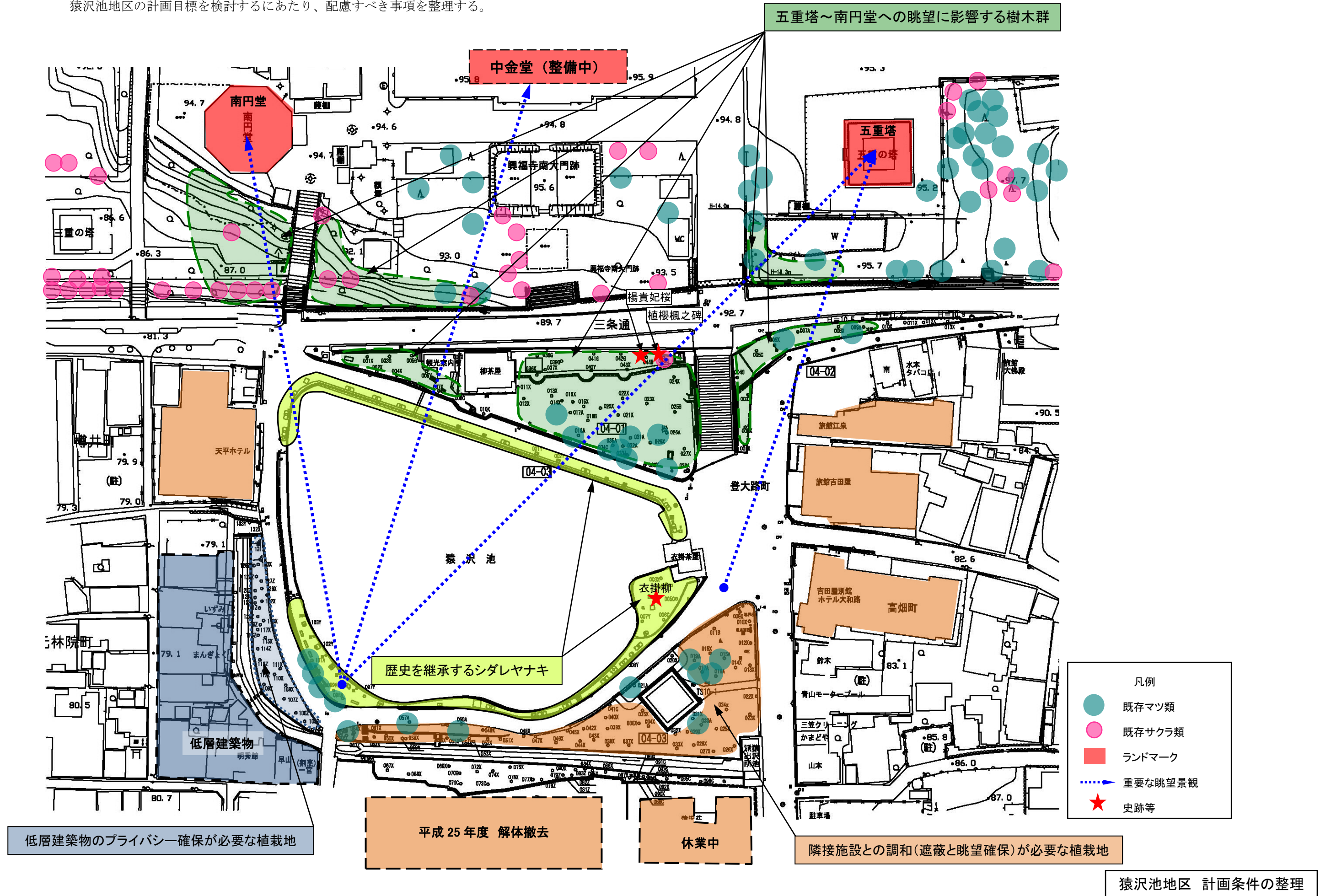
大湯屋と瓢箪池



南大門跡と般若の芝

2) 計画上配慮すべき事項

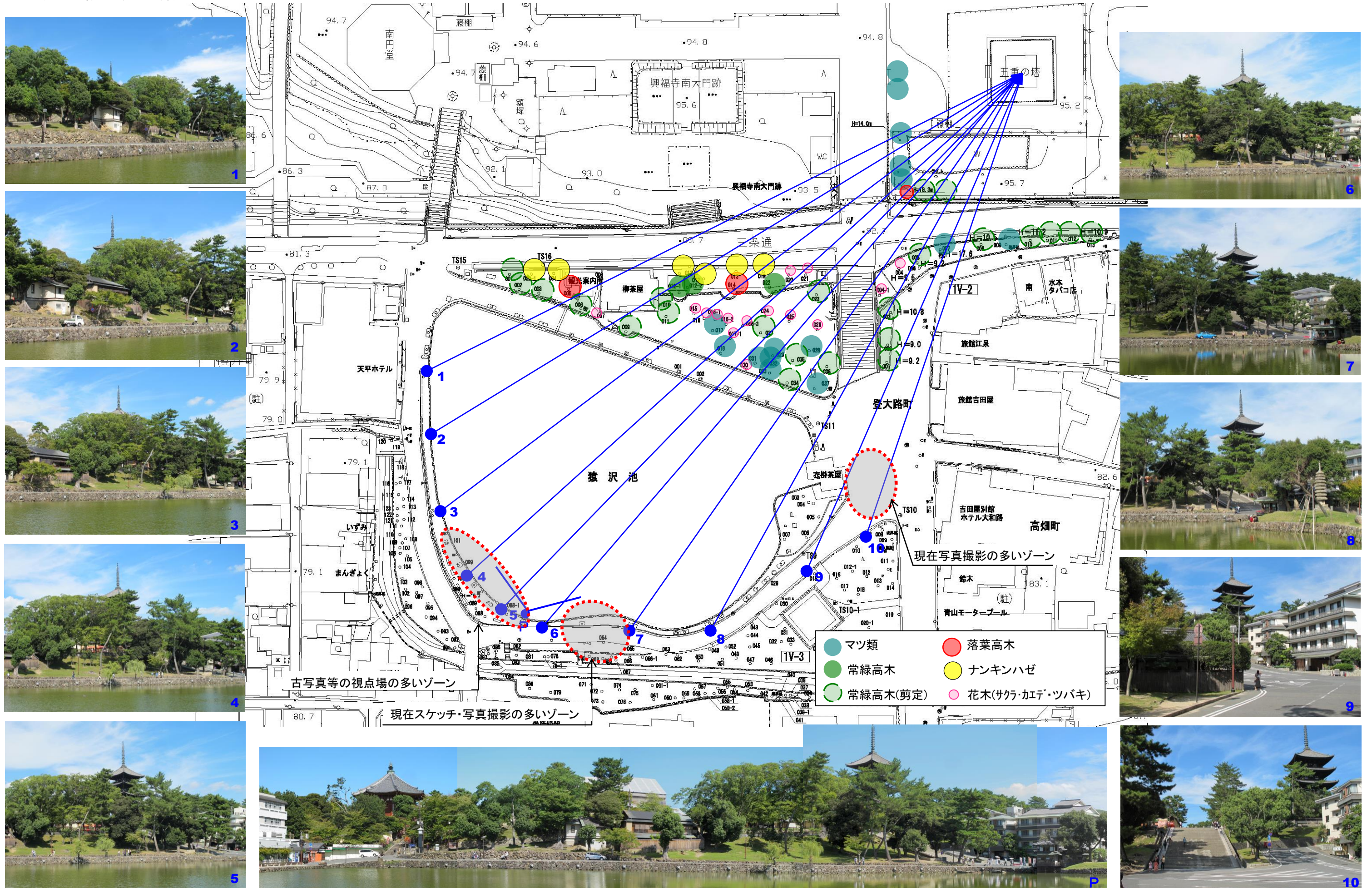
猿沢池地区の計画目標を検討するにあたり、配慮すべき事項を整理する。



猿沢池地区 計画条件の整理

2. 眺望の検討

1) 五重塔への眺望の現況



1



2



3



4



5



6



7



8

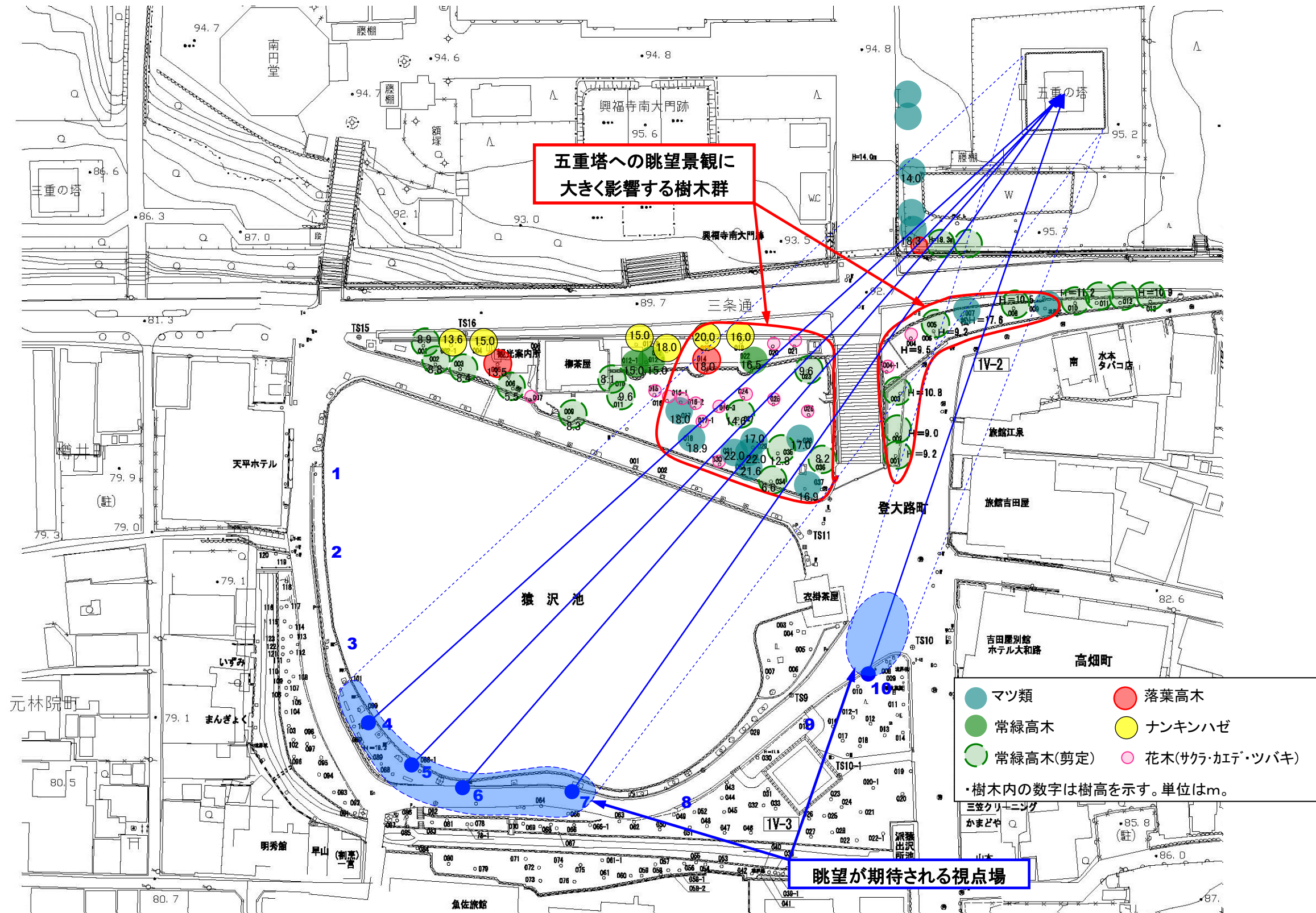


9



10

2) 五重塔への眺望 視点場と眺望と影響する樹木群

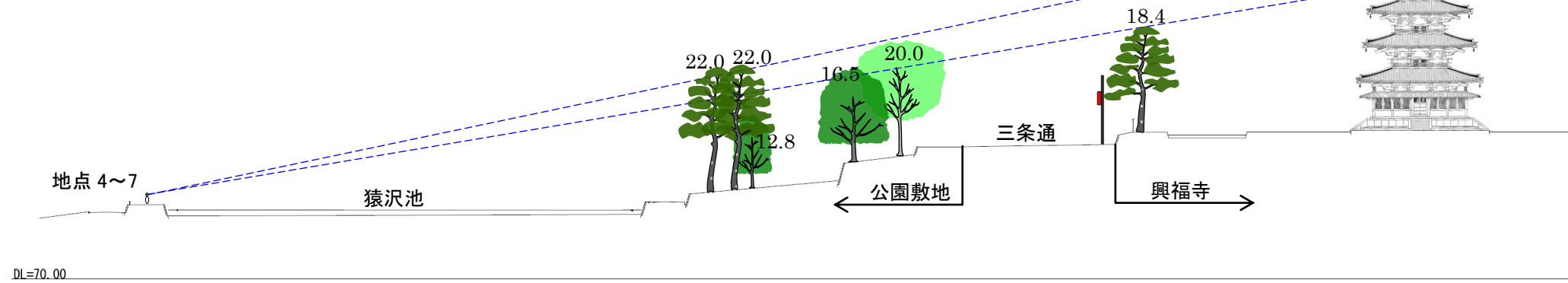


五重塔への眺望検討
視点場と眺望に影響する樹木群

3) 五重塔への眺望 断面検討

分析評価

- ・現況では樹高20m 前後の樹木により五重塔が殆ど見えない。
- ・眺望地点によっては、樹木の間から上二層が見える。
- ・公園敷地内の樹木が無くなっても、興福寺敷地内のマツがあり視線を遮る。



現況の断面

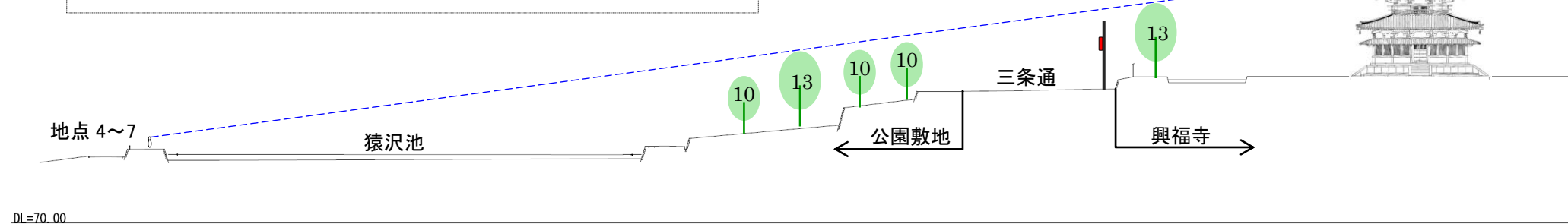
- ・断面位置は地点 4 付近から五重塔を結んだ線上
- ・樹木シルエットの数字は樹高を示す。単位はm。



地点 4 からの景観

分析評価

- ・大正～昭和前期までは上三層が見えていた。
- ・公園及び興福寺敷地内の樹木の高さは、10～13m 程度と想定される。
- ・右写真にはマツはあるが、五重塔への視線には配植されていない。



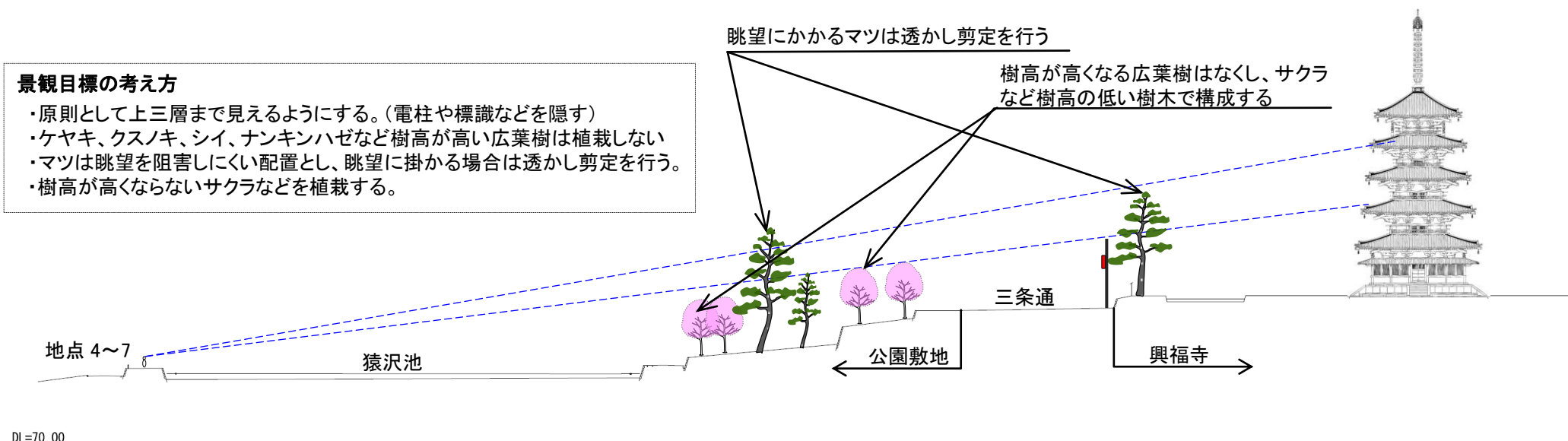
計画目標の参考となる断面(昭和 28 年時想定)



昭和 28 年の景観 (地点 4 付近)

景観目標の考え方

- ・原則として上三層まで見えるようにする。(電柱や標識などを隠す)
- ・ケヤキ、クスノキ、シイ、ナンキンハゼなど樹高が高い広葉樹は植栽しない
- ・マツは眺望を阻害しにくい配置とし、眺望に掛かる場合は透かし剪定を行う。
- ・樹高が高くないサクラなどを植栽する。



計画目標(案)

4) 五重塔への眺望の経年変化

絵図や古写真等より五重塔への眺望の変化を確認する。

●出典について

◇：平成21年度 名勝奈良公園保存管理・活用計画策定検討業務 平成22年3月

※：個人HPに掲載されている資料（転載注意）

◎：入江泰吉

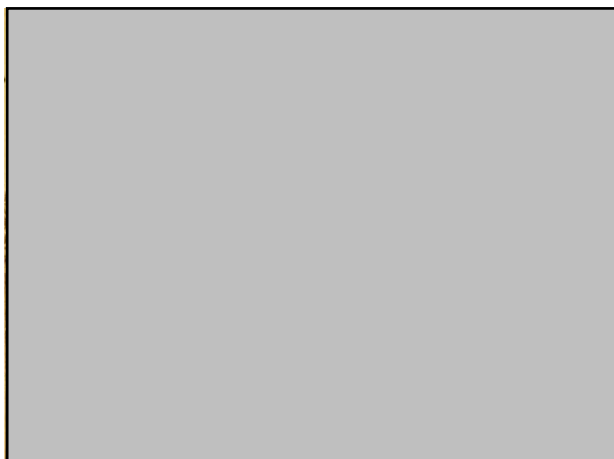
『入江泰吉古都の暮らし・人 -昭和20年から昭和30年代』（2005）

『昭和の奈良の大和路 昭和20～30年代』（2012）

【江戸期・明治初期】



「大和名所図会」寛政3年(1791)◇



明治5年(1872)◇

- ・五重塔は上部4層が見える。
- ・興福寺にはマツ大木が見られ、五重塔の右に若草山が連なる。